

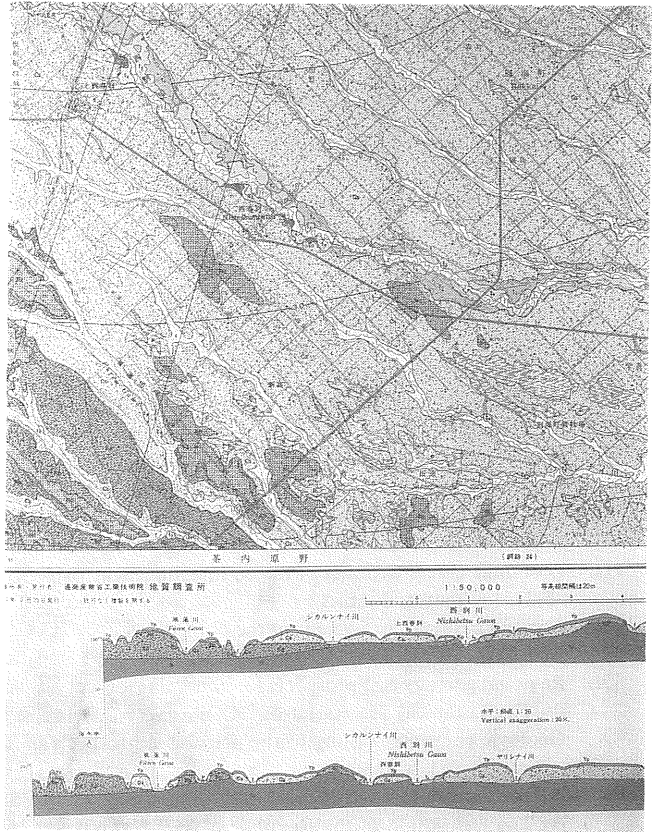
根釧原野はその広さだけでも大陸的です。高台に登ると 360° の眺望が開け地球が丸いことが実感できます。現在では原野の大半が放牧地や牧草地として利用されており 神奈川県の1/2ほどの面積をもつ別海町では 人口2万人に対して牛10万頭とされています。

計根別図幅地域は根釧原野のほぼ中央(根室支庁)にあって なかでも最も起伏の小さい地域に当たります。大部分を占める平坦面(上春別面)は 最終氷期の幅広い網状河川の砂質堆積物と考えられる茶志骨層からなり 更に全域を厚さ3~5mの摩周及び新期テフラ層(更新世末~完新世)が覆っています。これらのテフラについては従来からの研究も多く 良く知られています。

しかし 完新統が厚いために更新統の分布や層層が不明でした。そのため 露頭の無いところはハンドオーガー調査を行い周辺地域を含めて台地のテフラが追跡されました。こうして 更新世テフラが茶志骨層に囲まれて台地に残っている様子が分かり 摩周テフラ層以上の表層を取り去った地質図が作られました。後期更新世の火山性堆積物は 風化面や斜交関係から

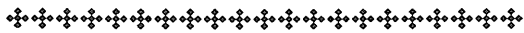
下位より戸春別層 屈斜路火砕流堆積物IV 中春別テフラ層(上下に二分される) 茶内テフラ層に区別されます。

地表でみられる最下位層は戸春別層ですが 地下には更に釧路層群相当の海成層のほか 第三系基盤岩類の存在が既存ボーリングデータから知られています。屈斜路火砕流堆積物IVは11~12万年前の噴出と言われ 厚さ10数mで台地をなしています。下部中春別テフラ層には 広域テフラ Aso-4(7万年前)や Spfa-1(3.2~3.5



万年前)が含まれます。また 上部中春別テフラ層と茶内テフラ層は降下軽石層を主体とし 合計22枚のテフラが識別されました。巻末には主要な降下テフラの層厚と粒径の分布図が示されていますが 本地域の北西には摩周・アトサスプリ・屈斜路の各火山が一行に並んでいるため 給源火山の特定のためには北方の斜里地方などとの対比が更に必要です。

一方 この地域には インボリュージョン アースハンモック 凍結割れ目など 寒冷地特有の地質現象がみられ 周氷河環境の面でも興味深いところです。



5万分の1地質図幅の新刊

計根別 KENEBETSU

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著者 宮田雄一郎・山口昇一・矢崎清眞
 発行 工業技術院 地質調査所
 取扱先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401
 日本産業技術振興協会 (0298) 52-3388
 そのほか全国主要書店

販売価格 2,400円

地質ニュース	第408号	8月号
昭和63年8月1日	定価 ¥ 650	〒実費
編集	発行	
発行人	林久雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	出版事業部